The Method Files

パイモン

王の声



歴史・象徴・十二の実践

themethodfiles.com

日本語版
日本語組版：游ゴシック。巻末の書体名はスペイン語原版の記載です。

パイモン

王の声

登録不要で読める、書籍全体からの抜粋です。原版の構成とページ番号を保ち、本文を日本語に訳しています。

序論、歴史を扱う一節、読解演習、一つの実践の全体、そして内容を位置づける参考資料を収めています。ページ番号が飛ぶのは抜粋のためであり、ページの欠落ではありません。

歴史

書物の伝承の中の王

読解演習

限界を明示する紹介票

現代の実践を全体で読む

声に形を与える

本書の別の箇所への参照は、書籍全体を対象としています。この試し読みのページは原版の順序に従っています。PDF閲覧ソフトのしおりで各箇所へ移動できます。

資料を読む。創作を見分ける。

資料

所在を確認できる文章、画像、物。資料が力を帰属させたり出現を語ったりするときは、その文献の主張を示し、確認済みの事実に置き換えません。

受容

ある名前や姿が、別の書物、時代、芸術表現の中で変容すること。位階、外見、役割の違いを保ち、説明します。

解釈

本書で提案する読み方。資料の言葉とは区別され、出発点となる資料を変えることなく見直すことができます。

現代の儀式

本巻のすべての実践は独自に構成したものです。それぞれについて、資料から取り入れた主題を特定し、独自の道具、言葉、終了、記録の方法を示します。

実践の基準

参加は任意であり、いつでも終了できます。超自然的な結果を約束するものではありません。実践が扱うのは、自分自身の注意、崇敬、行動です。他人を支配する許可を与えるものではありません。

スペイン語原版の文言は独自に作成されたものです。他言語の用語は、文脈または用語集で説明します。

王の声

パイモンの項目を一度も読んだことのない人でも、その姿には見覚えがあるかもしれません。ヒトコブラクダに乗った冠を戴く姿に、音楽と権威への期待が伴います。本巻は、その親しみがどこから来るのか、出典を示さずに像を繰り返すと、どの違いが隠れてしまうのかを問うことから始めます。

ヴァイヤー、英語版、『ゴエティア』、スコットに追加された資料、コラン・ド・プランシーの辞典は、一つの同じ頁をなすものではありません。番号、位階、方角、人物の示し方が変わります。比較ではそうした違いを保ち、どの伝存資料が各主張を支えるか、読者にわかるようにします。

図版は歴史的な版の頁や図像を全体の形で複製しています。その目的は観察を可能にすることです。印章がどう現れるか、項目がどこへ続くか、分類が何をするか、扉がどのように権威を主張するかを見ます。画像には常に刊行年を添えます。

十二の儀式は、言葉と学習を中心とする現代の構成です。自分の声、調べられる問い、応答に開かれた決定を扱います。各実践には、準備、手順、文言、終了、解説があります。歴史上帰属された力を学ぶことは、それを実践の目標として再現する義務を伴いません。本書の提案は独自の目的を明示し、情報を踏まえた選択を読者に委ねます。

書物の伝承の中の王

パイモンは『ゴエティア』の伝承の中で王として提示されます。その記述には、冠、ヒトコブラクダ、音楽、声、教えが組み合わされています。この組み合わせによって見分けられる姿が生まれますが、詳しい伝記や、その人物が歴史上実在した証拠になるわけではありません。本巻の出発点は本文です。資料は何を述べ、どう関係し、どこが異なるのかを見ます。短い項目だからこそ正確に読む必要があり、その沈黙を創作した神話で埋めてはいけません。

この姿は、異なる書物や版でPaymon、Paimonなどの形で現れます。ヴァイヤーは『Pseudomonarchia daemonum』に取り入れ、スコットに組み込まれた翻訳は伝承の別の段階を示し、『ゴエティア』は七十二の霊の目録に配置します。一致は重要ですが、番号、方角、付き添う者の名の違いも重要です。厳密なグリモワールは、そうした異同を保ち、一律の紹介にまとめることを避けます。

「王の声」は、The Method Filesの読解の軸です。題名は記述にある緊張関係を捉えています。音を伴う荘厳な到来は、理解できる言葉を保証しません。そのため、現代の実践は話すことと聞くこと、尊厳と学びの両方を扱います。歴史上の喚起儀式全体を復元することが目的ではありません。資料で確認できる主題から、独自の文言を用いた現代の儀式を構成し、ある主張に調査、明確化、見直しが必要なときを見分ける基準を設けます。

出典：P1、P2、P3

限界を明示する紹介票

架空の紹介票がパイモンを「古代以来の第九の王」と記し、その文言をすべての資料に帰属させています。問題は、目録内の位置、位階、古さを、それぞれを支える資料を示さず一つにまとめたところから始まります。訂正する前に、三つの主張を分けてください。

この章の情報だけを使い、名前、伝存資料、位置、位階を記した新しい紹介票を作ります。まだ確認が必要なことは別の行に残してください。過度な断定を、同じく絶対的な否定に置き換えてはいけません。今回の読解である情報が見つからないことは、伝承全体にないことの証明にはなりません。

他の人が、選んだ項目を探し当てられるか確認します。最初の文も残し、どの関係を証明済みとはみなさなくなったか、正確に示してください。

伝存資料を特定した紹介票

未確認の主張と必要な参照

卓上を準備する

本文、パイモンの名前を書いたカード、記録帳を置く台を用意してください。大半の儀式では紙と声を使います。音を使う場合は穏やかな音量で、あらかじめ選んだものを鳴らします。特定の楽器や増幅装置は必要ありません。

始める前に目的と手順を読んでください。具体的な考え、問い、課題を一つ用意します。短い内容なら丁寧に見直せます。明瞭さ、リズム、応答を検討するには、三つの文で十分なこともあります。

印章を使う場合は、版と図の番号を特定してください。手で写したものは、現代の研究として記録します。方角は各資料の中で比較し、それを使わない実践に要件として加えません。

声を無理なく使って読める時間を確保してください。書く方法や黙読する方法も使えます。終わったら本文の各版を保存し、変更を書き留めます。実践の中で準備した会話、授業、出版物には、その後、それぞれ固有の状況と相手が存在します。

一つの意図と終点

始める前に、何をするか、どうすれば終わったと分かるかを書いてください。その後、事実、印象、判断を別の欄に分けて記録します。

儀式の形式

自然な声

開始時には意図を言葉にし、楽な声を使います。音量は実践の質の尺度ではありません。声を出すのが適切でないときも、黙読や筆記によって構成を保てます。

役割のある休止

沈黙は意味のまとまりを区切り、見直す余地を生みます。そこに合図を期待するものではありません。休止を耐久試験に変えずに注意を保てるよう、長さを調整できます。

問いと応答

各定型文は、言い換える、比較する、説明する、返答を準備するといった行動につながります。儀式では自分の言葉に取り組み、他者が自らの判断と意思を保つことを認めます。

別れ

終結では、その回の実践を明示的に終えます。物を元の場所へ戻し、未解決の問いは記録に移します。儀式を開いたままにしなくても、別の日に研究を続けられます。

十二の手順とその定型文は、独自に創作したものです。各実践では、資料に由来する主題を特定しています。

01・声に形を与える

短く、耳に届き、理解できる宣言によって、パイモンに関わる実践を始めます。この儀式では自分の説明や依頼を準備し、声の強さと、伝えたい内容の明瞭さを区別します。

資料は、初めは容易に理解できない力強い声を描いています。この主題は、「言葉が受け取られるためには、何を変える必要があるか」という豊かな問いを生みます。この現代の儀式実践では、発音、休止、内容に取り組みます。咆哮をまねたり、音量によって出現を起こそうとしたりするものではありません。

定型文は自然な声で唱えます。パイモンの名によって実践を本書の中に位置付け、紙に目的を記します。最後の文は、後で儀式の枠組みから離れても読める必要があります。目指す成果は、よりよく準備された宣言です。それが実際にどう受け取られるかは、その状況と聴く人々に引き続き左右されます。

用意するもの

パイモンの名を書いたカード、紙、鉛筆、通常の用途で使う水を入れたコップ。時計を用意してもかまいません。楽器、増幅装置、煙、特別に低い声や荘厳な声は必要ありません。

準備

15分を確保してください。伝えたい考えを、三つ以内の文で書きます。カードを奥に、紙を手前に置きます。黙読し、主な目的を表す言葉に下線を引いてください。

主題の出典：P1、P2。パイモンの項目にある、理解しにくい声と教授。

01・手順と終結

01・最初の文章を聴く

無理のない音量で、文と文の間に休止を入れながら一度読んでください。息が足りなくなった箇所、情報が詰まった箇所、曖昧だった言葉を書き留めます。つかえたことを外からの合図と解釈せず、文章の形を見直す材料にしてください。

02・明瞭さを求めて呼びかける

紙の両側に手を置き、定型文を唱えてください。その後、しばらく沈黙します。長すぎる文を短くし、不正確な語を置き換えます。目的が変わった場合は、前の文章に無理に当てはめず、新しく書いてください。

03・言葉を届ける

文の間で前を見ながら、修正した文章を読んでください。適切であれば、具体的な問いや依頼で終えます。紙を卓上に置き、事前にあなたの意図を知らない人にも何が理解できるべきかを書いてください。

スペイン語原版の独自の定型文

パイモンよ、声と楽器の間で名を呼ばれる王よ、この卓の前で私は自らの言葉に形を与えます。音量が意味を隠さず、荘厳さが正確さに取って代わりませんように。聴き取れる一つの考えを示し、その見直しを受け入れ、応答のための余地を残します。注意深く始め、明瞭に終えます。

終結

カードを片付け、こう言ってください。「言葉の準備はできました。他者と出会う時は、別に訪れます」。修正した文章を記録し、卓上を片付けます。必要なら声を休めてください。文章を繰り返して意味をすり減らすことなく、その回の実践を終えます。

指定された時点で定型文を読んでください。終結によってその回の実践を完了し、その後の課題と区切ります。

01・解釈と記録

実践の意味

明瞭な声は穏やかでもよく、短い文にも準備が必要なことがあります。この儀式は、アクセント、声質、個人の話し方を評価するものではありません。内容が理解して追える形になっているかを検討します。変更を書き残すことで、改善を自信がついたという印象だけに頼らずに確かめられます。

応用例

ある人が共同作業を提案する準備をしています。最初の文章では、背景、希望、条件が混在しています。二つ目の文章では、一つの課題、期限、問いを示します。儀式が承諾を得るのではありません。答えやすい提案が残るのです。

別の方法

話したくない場合や話せない場合は、黙読し、紙に記した休止を使ってください。同じように目的と明瞭さを見直しながら、書面による伝達を準備してもかまいません。

記録の問いと欄

何を伝えたかったですか。二つの文章の間で何が変わりましたか。受け取る人には何が理解できるべきですか。両方を保存し、実際に使った場合は、後でどのような返答があったかを書いてください。

例は実践を理解するための架空の状況であり、効果の証言として示すものではありません。

参照資料・1

P1

Goetia、第9の霊的存在と退去の許可。Sloane MS 3825、ジョセフ・H・ピーターソンによる翻刻。

異なる読みが明示された、伝存資料の翻刻を参照します。現代の序文と注は、歴史的な本文と区別します。本書に複製した印章の画像は1916年版に由来し、ウェブサイトの現代の図ではありません。

資料を参照

P2

ヨハン・ヴァイヤー。Pseudomonarchia daemonum、Paymon、第22項。Esoteric Archives掲載のラテン語と英語版。

照合では、外見、位階、方角の違いを保ちます。スコットが伝えた英語版を、ラテン語と異同のない代替物とは扱いません。22という番号はこの目録に属し、『ゴエティア』の順序ではありません。

資料を参照

P3

The Lesser Key of Solomon: Goetia。L. W. ド・ローレンス版、シカゴ、1916年。

頁、印章、名前、分類の確認に用いた歴史的資料。1916年の刊本は、写本に比べれば近代の編集上の伝存資料です。その名称や帰属によって、各要素がソロモンの原作になるわけではありません。

資料を参照

参照：2026年9月。言い換えと解説は独自のものです。現代の注を歴史的な本文と区別します。

参照資料・2

P4

The Discoverie of Witchcraft：1665年版の追加資料、第III章。Esoteric Archives掲載の翻刻。

追加資料を、レジナルド・スコットの1584年の原著とその批判的立場から区別します。Paymonは別の体系に登場します。これらの箇所をスコット本人に帰することは避けます。

資料を参照

P5

J. コラン・ド・プランシー。Dictionnaire infernal、第6版、パリ、H. Plon、1863年、521頁、「Paymon」。

この頁から、19世紀の受容の中で本文と画像を研究できます。ルイ・ル・ブルトンの原画をジャローが版刻した図は、その版の一部です。古代から伝わる肖像ではありません。

資料を参照

P6

ハインリヒ・コルネリウス・アグリッパ。De occulta philosophia、第III巻、第24章。

Paymonは方位による配置の中に登場します。この分類上の役割を、他の本文における実践者の向きと区別します。比較では、複合した一つの指示を作るのではなく、資料を分けて保ちます。

資料を参照

参照：2026年9月。言い換えと解説は独自のものです。現代の注を歴史的な本文と区別します。

画像と権利・1

01・辞典の中のPaymon

J. コラン・ド・プランシー、Dictionnaire infernal、第6版、H. Plon、パリ、1863年、521頁。ルイ・ル・ブルトン原画、Jarraultの署名がある版画。Internet Archive掲載のLibrary of Congress所蔵資料。パブリックドメイン。

資料を参照

02・第九の項目

The Lesser Key of Solomon: Goetia、L. W. ド・ローレンス版、シカゴ、1916年、24頁。Internet Archiveでデジタル化された資料。パブリックドメイン。

資料を参照

03・項目の続き

The Lesser Key of Solomon: Goetia、L. W. ド・ローレンス、1916年、25頁。Internet Archiveでデジタル化された資料。パブリックドメイン。

資料を参照

04・連続する記号の中の印章

The Lesser Key of Solomon: Goetia、L. W. ド・ローレンス、1916年。巻頭の印章1–24の図版。Project Gutenberg、第72679番で公開された歴史的刊本の複製。パブリックドメイン。

資料を参照

複製の方針

頁と作品は全体を保ちます。縮尺の調整に際して、記号を描き直したり、失われた部分を再構成したりはしません。リンクは対象物や資料を特定し、その情報と利用条件を確認できるようにします。

CC0とPublic Domain Markは、各機関が示す条件を特定するものです。作品の著作者が本書であるとするものではありません。

画像と権利・2

05・名前と読む順序

The Lesser Key of Solomon: Goetia、L. W. ド・ローレンス、1916年。巻頭の名前の図版。Project Gutenberg、第72679番。パブリックドメインの歴史的刊本。

資料を参照

06・円と三角形

The Lesser Key of Solomon: Goetia、L. W. ド・ローレンス、1916年。巻頭の円と三角形の図版、図153–154。Project Gutenberg、第72679番。パブリックドメイン。

資料を参照

07・分類の中の王

The Lesser Key of Solomon: Goetia、L. W. ド・ローレンス、1916年、47頁。Internet Archiveでデジタル化された資料。パブリックドメイン。

資料を参照

08・扉の権威

The Lesser Key of Solomon: Goetia、L. W. ド・ローレンス版、シカゴ、1916年。内扉。Internet Archiveでデジタル化された資料。パブリックドメイン。

資料を参照

表紙

表紙：2026年にThe Method Filesのため、人工知能の支援を用いて制作した現代のイラスト。歴史的な対象物の複製ではありません。スペイン語原版の書体：Constantia、Calibri。デジタル閲覧用に埋め込まれています。

CC0とPublic Domain Markは、各機関が示す条件を特定するものです。作品の著作者が本書であるとするものではありません。

パイモン

王の声

この先も読み進められます。

書籍全体は124ページで、読解演習と12の現代の儀式実践を、出典および参考資料とともに収めています。

実践を行わずに、歴史をたどる部分だけを読むこともできます。実践に取り組む場合は、現代に構成されたものと明示された内容を、準備、手順、終結とともに読むことができます。

PDF形式の電子書籍の日本語版です。個別指導やTMFの講座へのアクセスは含まれません。演習の解答はノートに書くか、PDF閲覧ソフトの注釈機能で記入します。

書籍全体を見る

日本語版：ｐａｉｍｏｎ